

オフィス のチカラ



【特集】

今改めて、 テレワークを考える

【納入事例】伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
ピー・シー・エー株式会社

【オフィスカイゼン委員会】日鉄興和不動産株式会社

【オフィスデータ】テレワークやってみて、オフィスに期待することって？

今改めて、テレワークを考える



新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が発出され、政府から「出勤率7割減」の要請が出るなど、半ば強制的にテレワークが導入されてから丸2年が経とうとしています。以前は、一部の限られた人が育児や介護などの事情で使う、福利厚生の位置づけの制度と見られがちでした。しかし東京都が行った調査では、2021年10月時点でテレワーク導入企業は55.4%(300人以上の企業では86.7%)、社員の実施率は48.3%となり、今や多くの企業で一般的なワークスタイルのひとつとなりました。テレワークを全社的に経験し、運用の工夫を重ねてきたことで、そのメリット、デメリットもだんだん明確になってきたのではないかと思います。

では今後コロナ禍が収束に向かい、社会情勢が落ち着きを取り戻してきた後はテレワークをどう展開していけばいいのか、改めて考えてみませんか。

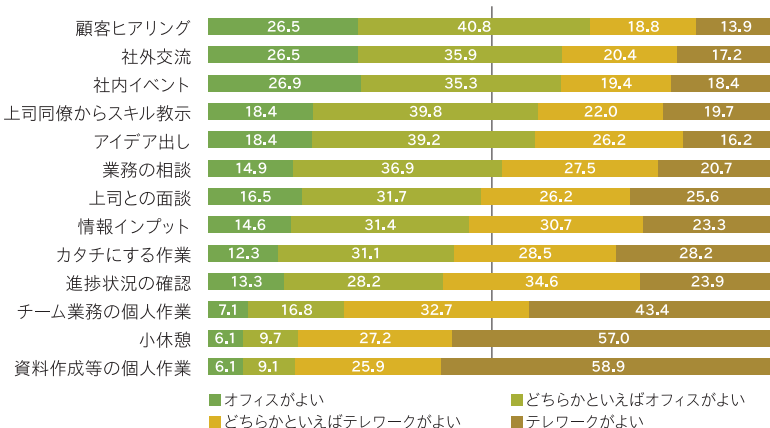
テレワークのメリット・デメリット

テレワークを経験したワーカーの多くが感じているメリットに、通勤時間の削減と満員電車や渋滞による心身の負担軽減という点があります。1日2～3時間かけてオフィスと自宅を往復していた時間を他に使うことができ、ワーク・ライフ・バランスが取りやすくなったとも言えるでしょう。また業務面においても、途中で話しかけられることなく作業に集中できるという利点を多くの方が実感しています。コクヨで行った調査では、「資料作成等の個人作業」はテレワークで行いたいという答えが圧倒的に多くなりました。

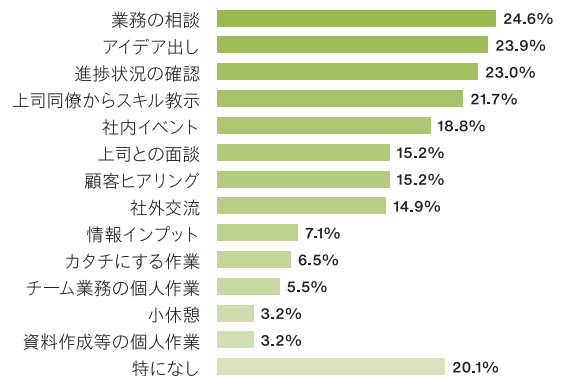
一方、業務の相談やアイデア出し、業務進捗の確認などコミュニケーションに課題を感じる事が多く、また特にずっと自宅一人で仕事をしている人などは孤独を感じやすく、オン・オフの切り替えが難しいことなどメンタルヘルスへの影響も懸念されます。

とはいえ、導入当初に比べオンライン会議やコミュニケーションツールの活用も定着し、ワーカー自身もオフィスと自宅それぞれに向いている作業が何かを考えて、業務内容によって出社とテレワークを使い分ける意識は定着しつつあるのではないのでしょうか。

オフィスで行いたい業務 ↔ テレワークで行いたい業務



テレワーク下で苦心している業務



出典：コクヨSmallSurvey2「テレワーカーからみたオフィスの価値」レポート
(コクヨ株式会社 2020.11実施) n=309

アフターコロナのテレワークは?

では、コロナの収束が見られてきた後は、テレワークはどのように移行していくのでしょうか。

働き方の大きな変革を目の当たりにし、学生が会社選びで最も重視する条件として一番多く挙げたのが、「在宅勤務やリモートワークができること」(49%)で、「給料が高い」(33.3%)「やりたいことが実現しやすい」(20.7%)を上回るという調査結果(BIGLOBE「ニューノーマルの働き方に関する調査」2020年9月実施 n=300)があります。働く場所に縛られずに仕事をするスタイルが一般化しているなか、**テレワークの選択肢がない会社では優秀な人材確保の機会を逃してしまう危険性も見えてきています。**

テレワークを実施してみて、自社の業務内容や形態に合っているか、社員はどう受け止めたかなど事情は会社によって異なるでしょう。しかし、アフターコロナでは会社のビジョンや方向性に合わせて働き方を考え、それを踏まえて**「出社率」についても検討しておくことが、オフィス作りに欠かせない視点**となります。実際、オフィス空間を最大限に活用できるフリーアドレスやABWを検討している企業も増加しています。



オフィスは「行くべき場所」から「行きたい場所」へ

テレワークを恒常的な働き方のひとつとして考えると、**在宅勤務時の生産性を担保する環境作りを社員任せではなく会社としてサポートすることも必要**です。例えば、在宅でのデスクワークに適した机やイスの設置、オフィスと在宅でシームレスにコミュニケーションが取れるツールやルールの導入などは効果的です。

一方、オフィスと自宅やサードプレイス等でのテレワークを組み合わせたハイブリッドワークが前提になると、ワーカーにオフィスではどんなことをしてほしいのかを考えていく必要があります。これまでオフィスは当たり前「行くべき場所」でしたが、今後は「**選択肢のひとつとして行きたい場所**」として、そこにしかない**高機能・専門性を進化させ、個人と組織をつなぐ役割の重要性が高まっていく**と考えられます。

コロナ禍においては行動を制限され、ワークでもライフでもそれぞれ不自由を強いられて、テレワークのメリットを生かしにくい環境にありました。

今後、出社すればオフィスにしかない価値を生かして生産性高く仕事ができ、在宅勤務では効率よく作業できて、移動のロス解消などによって増えた可処分時間をよりアクティブに生かすことができるようになれば、一人ひとりのQOL向上が期待できます。コロナ禍が定着のきっかけとなりましたが、今改めて、テレワークを考えてみませんか。

また、「**オフィスに常に人がいることを前提としない**」オフィスサービスを導入することで、在宅勤務でも安心して業務ができます。例えば郵便書類を電子化して転送するサービスや総務・経理等へのweb相談窓口の開設、社員間で物品を受け渡す仕組みなどが考えられます。

アフターコロナのハイブリッドワーク時代に向けて、オフィスに来ればより集中できる、刺激がある、人とコミュニケーションが取りやすいなど、オフィスの魅力を高めるのと同時に、在宅勤務の生産性を高めるサポートも行う。ワーカーがオフィスでも自宅でもより働きやすくなるために、サポートもハイブリッド化が必要なのかもしれません。



Note

在宅勤務で課題に感じるこの声として非常に多いのが、「長時間のデスクワークに適したイスがない」こと。書斎ではなくダイニングテーブルで仕事をする人も多いという背景から生まれた、オフィスチェアの機能もありながらリビングに調和するデザイン性を持つ「ingLIFE」。バランスボールに座っている感覚で座面が360°自由に動くグライディングメカが、座ったときの上半身の負荷を解放します。ワーカーの在宅勤務の生産性を担保するために、まずはここから見直してみませんか。

「ingLIFE」詳細はこちらから。

<https://workstyle.kokuyo.co.jp/shop/pages/sp-inglife.aspx>





オフィス最上階の16階にある、明るい光が降り注ぐ、広々とした共有エリアのカフェラウンジ。美味しいコーヒーを提供する「HINARI CAFE」がグループ社員の交流を促します。



カフェラウンジは、リラックスしながらコーヒーを片手にアイデア発散したり、複数人数で気分を変えた打ち合わせにも最適なスペースとなっています。



ITOCHU Techno-Solutions Corporation

グループの拠点統合と ニューノーマルへの対応を叶えた 自律的に「技」を磨くオフィス

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

グループの拠点統合とニューノーマルを 見据えたオフィス変革に挑戦

最先端のIT技術やクラウドサービスで様々な課題解決に取り組む伊藤忠テクノソリューションズ株式会社様（以下、CTC）。ITコンサルティングやITソリューション、コンピュータ・ネットワークシステムのアウトソーシングなど、深い専門知識と蓄積されたノウハウを活かし、幅広い業種のお客様

へソリューションを創出しています。

在宅勤務制度やコワーキングスペースの活用などは早くから導入していたものの、一部の社員だけが利用していた状況から、コロナ禍によりほとんどの社員が在宅勤務へと急激に移行。かねてより、分散する拠点への対応を検討していたところに、ニュー

ノーマルな働き方を実現するオフィス作りが急務となりました。立地や規模、高度なBCP機能など好条件のビルに巡り合ったことで、移転が急ピッチで進められることになりました。



TelBoothでは周りの音を遮断できるため、お客様との商談や面談など周囲に聞かれたくないミーティングも集中して行えます。



カフェラウンジの一角にあるフェイクではなくリアルなグリーンに囲まれたスペース「Forest」。発想を柔らかくしたり、心身のリチャージ効果も期待できます。



カフェと同じ16階にある非日常感あふれる設えのワークラウンジ。様々なタイプのテーブルなどに加え、複数のソロブース、モニターやホワイトボードなどのツールを備えています。



「ライブラリー」にはビジネスや技術はもちろん、健康・ウェルビーイングなど様々なジャンルの本を取り揃えており、考えを深めたり刺激やエネルギーを得ることができます。現在約300冊の書籍があり、今後リクエストに応じて本の種類を増やしていく予定です。



16階の「Park」にはひな壇やスクリーン、音響設備も設置されており、社内外のイベント開催や大人数での情報共有もスムーズに行えます。利用用途により様々なレイアウトに変更可能です。

自律的に「技」を磨くためのオフィス 目的に合わせて選べる 多様なスペースを配置

移転前は対向島型の固定席に役職席のひな壇がある典型的なオフィスでした。社員が増えるたびに席数確保のためスペースを削ることを繰り返した結果、ミーティングやリフレッシュなどのコミュニケーションのためのスペースが不足することに。「新型コロナウイルス感染拡大の影響で出勤率は2割前後となり、固定席は空いているのにオフィスとしての重要な機能を果たせる場になっていないと感じていました」とワークプレイス企画課長の石渡誠さん。また不確実な時代の中、新しい価値観にチャレンジすること、社員一人ひとりの「技」を磨き、それを結集することで組織の「技」とするために働き方もオフィスもアップデートする必要性がありました。移転プロジェクトのコンセプトワードは

「BE READY FOR CHANGES!」。最年少プロジェクトメンバーである総務部ファシリティマネジメント課の地曳健太さんの案が採用されました。

決定から移転完了まで限られた時間で約7,000人を受け入れるオフィス構築となったため、「意思疎通と意思決定を短期間で行うべく、必要最低限のメンバーでプロジェクトメンバーを構成し、移転タスクフォースのリーダーは人事総務部門の執行役員、重要な決定のみ社長に相談、というスピード重視の体制で進めました」と総務部ファシリティマネジメント課の高野和孝さん。先行してオフィス構築を行っていた名古屋や福岡での知見も参考となりました。

新しいオフィスには社員一人ひとりが自律性と主体性を持って働く時間と場所を選択する「ABW (Activity Based Working)」を採用。個人ロッカーがあるそれぞれの執務フロアをベースとしつつも、他のフロアも

利用可能な完全フリーアドレス。また、カフェやワークラウンジを設けた16階も社内のサードプレイスのように活用できます。「オフィスのデザインコンセプトは『プリズム』」です。これまで東京近郊10カ所にわかれていたグループ各社が神谷町オフィスに集結することになり、様々な特色を持つグループ各社、組織、職種、そして個人が集まって強みや個性を発揮しあい、シナジーを生み出すイメージを表現したいと考えました」と総務部ワークプレイス企画課の黒田正さん。プリズムから生まれる虹の7色を各執務フロアのイメージカラーとして配色し、グループメンバーが交わり合う16階にはそのすべての色を取り入れることで、個性が混ざり合うイメージを表現しました。

在宅勤務の方が多くなかで移転に関して社員との間に温度差を感じることもありました。そこで情報発信サイトで新しいオフィスの環境や入館方法、セキュリティなどを発

視線が交差するように、あえてオフィス中央にジグザグに作られたメイン通路。曲がり角に設置されたスタンディングテーブルや、共有文具を設置した「DoGuYa」はマグネットスペースとして偶発的な出会いを誘発します。



各執務フロアの中央には「SQUARE」というコミュニケーションスペース。気軽な打ち合わせや偶発的な会話で新しい発想を生み出します。





各フロアに配置された「コンシェルジュ」カウンターでは、オフィスサービスの身近な相談窓口として、備品貸出や社内申請手続き相談、宅配ロッカーを使用した荷物の受け取りが行えます。



「The Agile Tokyo」はコーポレートカラーを天井に配し、企業イメージの反映と遊び心を表現した空間。研修やイベント、外部とのコラボレーションなど、フレキシブルに使用します。

信、オフィスマニュアルを整備し、定期的に説明会を開催して質疑応答に対応。またオリジナルキャラクターを使った親しみやすい「かわら版」を発行し、コンセプト、ビルの情報や「ABW」の紹介、移転作業のスケジュールなど、わかりやすく情報発信を行いました。

オフィス作りもアジャイル型で使いながらより良く改善していく

移転後は昼休みに気軽に見てもらえるような動画の配信やオンラインでの「オフィス活用イベント」を実施。総務部ワークプレイス企画課の木村恵理さんは「入社したときに使ってみたくてもらえるよう、オフィスのコンセプトや空間の説明、オフィス内カフェやライブラリーなども紹介しました。今後は新設されたスペースでリアルな交流ができるイベントも実施できたらと考えていま

す」と話します。

また、「イントラ上にオフィスに関する『ご意見箱』を開設したり、アンケートをとったりしたところ、早くも『チーム連携や創造的アウトプットが増えた』といった声が上がりはじめてうれしいですね」と地曳さん。モニターの増設など、使っていくにつれて見えてくる要望や改善点に合わせ、柔軟に変化させていくのがアジャイル型オフィス作り。“アジャイル”とは「素早い」という意味で、小単位での実装とテストを繰り返すソフトウェア開発のやり方です。「計画→実行→評価」を行ないながら最適化を繰り返し、個と組織の「技」を磨くオフィス作りの挑戦はまだ始まったばかりです。

Feature!

社員同士の交流を目的とする こだわりのコーヒーが飲めるカフェ

「HINARI CAFE」では、ハンドドリップで丁寧に淹れたコーヒーを提供。特例子会社CTCひなり(株)の社員たちがサステナビリティに配慮した豆を選定し、試飲と練習を重ねたこだわりの一杯です。グループ社員のリフレッシュや交流の一端を担うとともに、CTCひなりの障がいのある社員たちが、コーヒーを求めて訪れる社員とコミュニケーションをとりながら技能を顕在化させる場にもなっています。



「Camp」エリアではオフィス家具とは異なったチェアに腰掛けることにより、くつろいだ姿勢でチームメンバーと情報交換やアイデア出しをカジュアルに行うことができます。



フロア毎に配色が異なっており、このフロアのカラーは「Green」。フロアを中心にランドマークとして設置されたガラス張りの会議室は、オープンな議論につながります。





オフィスの ココが好き!

My Favorite Things

一言で表すと 「新しい出会いが生まれるオフィス」!

新しいオフィスは全館フリーアドレスで自由にフロアの行き来ができるので、気軽に人と話しに行くことができます。また、知り合いの隣に座っている人などとの“新しい出会い”の機会も増えて、コミュニケーションの輪が広がりました。特にカフェラウンジでは、コーヒーを飲みながら会話をしたり、リラックスしてアイデア出しもできるので気に入っています。

藤野絵理さん（広報部）



見通しのよいフロアで 通りすがりの人と 偶発的な会話生まれる

机や椅子、空調など環境が整っていて自宅より快適なのでよく出勤します。執務室は開放的な空間で見通しがよく、また部屋の中央に通路が通っています。特にこの席は会議室に向かう通路に面していて、いろいろな部門の人が通りかかると、顔見知りになり声をかけてちょっとした会話をする機会が増えました。

生方宏之さん（金融企画統括部）

目的に合わせて 働く場所を選べるので より仕事に集中できます

新しいオフィスは様々なスペースが用意されており、目的に合わせて自ら働く場所を選ぶことができ、仕事はかどります。なかでも「Apartment」は半個室になっていて集中できるので、一人で仕事に没入したいときによく利用しています。窓からの景色もよくて気持ち上がり、楽しく出社しています。

小島里佳さん（CTCテクノロジー株式会社 人事部）



Q1 一番苦労した点はどこですか？

A 短期間での移転かつコロナ禍での大規模な引っ越しでしたので、とにかく時間がなくていち早く意思決定して社内に情報共有し実行することが求められました。誰も経験したことがないニューノーマルな働き方での判断基準がない中、席や会議室の数、密を避けての引っ越しの段取りなどを決めていくのは勇気がいりましたし、大変でしたね。

A 短期間でプロジェクトメンバーや経営陣で意思決定して進めたので、これから実際にオフィスを使った社員の意見を募りながらよりよくしていきたいです。オフィスは今これで完成ではなく、ここからまた時代の変化を先取りして変わっていかねばならない。オフィス作りに終わりはないですね。

Q2 進める上で大事にしたことは？

A やるからには新しいオフィスを自分たち自身がよいと思えるものにしたいと思っていました。自律しながら働けて技術力向上につながり、かつ生産性の上がる働きやすいオフィスとは？と日々考えながら、時間がなくても妥協したくないところはとことんこだわりました。

A 新しいオフィスを見て「いいね」と言ってもらえて、受け入れてもらえるのが苦勞が報われたと感じますね。そして、これまでばらばらのオフィスで働いていた人たちが偶然出会って、「久しぶりー」なんて言いながら交流しているシーンを見たときは思惑通りの展開でうれしかったです。

Q3 今後取り組みたいことは？

Q4 一番うれしかったことは？

今回、プロジェクトメンバーとして、キックオフ当時はまだ入社1年目だった地曳さんにも参加してもらいました。本人は大変だったと思いますが、社内の様々な人と関わり合い、会社のことを深く知る機会になって、彼自身の成長につながったことも、成果のひとつだと考えています。(石渡さん)

Project Data

事業内容：コンピュータ・ネットワークシステムの販売・保守、ソフトウェア受託開発、情報処理サービス、科学・工学系情報サービス、サポート、他
 納入年月：2021年6月
 規模：34,660㎡、7,000名
 提供内容：コンサルティング、インテリア設計、施工、プロジェクトマネジメント



プロジェクトメンバー(左から)
木村恵理さん、高野和孝さん、黒田正さん、地曳健太さん、石渡誠さん

Company Profile



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

Challenging Tomorrow's Changes 豊かな未来に向けてITの可能性に挑戦する。

CTCグループの総合力でお客様や社会の日々変化する課題に対し、最適な答えを導き出します。そして多くのIT先進企業とパートナーシップを組み、幅広い技術を繋ぎ、組合わせることで高品質のサービスを提供。ITを通じて社会課題の解決に取り組み、企業市民として地域社会をはじめとする多様なステークホルダーとの共生を図ることで、豊かで持続可能な社会を目指します。



コクヨ Web サイトページ「Casestudy」では様々な納入事例を掲載しています。ぜひご覧ください。
<https://www.kokuyo-furniture.co.jp/solution/casestudy/>

コクヨ 納入事例

検索



ウェビナー配信などに利用できるスタジオ。クロマキー撮影用の緑のカーテンも用意されています。



PCA CORPORATION

フロアごとに異なるコンセプトを取り入れ 自由度の高いABWを促進するオフィス

ピー・シー・エー株式会社

コロナ禍による出社率低下をきっかけにリニューアル決定

1980年に創業し、会計や販売管理・仕入・在庫管理などのコンピュータソフトウェアの企画・設計・開発を手がけるピー・シー・エー株式会社様（以下PCA）。2021年に、東京都千代田区の本社オフィスリニューアルを実施しました。

そのきっかけはコロナ禍です。東京オリンピックの交通規制に備えてテレワークができる環境を整えていたこともあって、緊急

事態宣言発出の際にはほとんどの社員が問題なくテレワークに移行。少し落ち着いた2020年秋ごろの出社率は3割程度となっていました。以前から部門間コミュニケーションの少ない社員の働き方に課題を感じていた総務部のメンバーは、出社者が少ない状況をリニューアルの好機ととらえ、新オフィス構築に向けて動き始めました。



個室はそれぞれの部屋で壁紙を変えています。



5Fのコンセプトは「Camp Fields」。芝生をイメージした小上がリスペースには窓辺のカウンター席やキャンプチェアがあり、くつろいだ雰囲気です。



4Fは「Secret Base」というコンセプト。ゆったりしたモニター付きの席や7つの個室、Web会議用ブースなど、集中してソロワークができる席を揃えています。



3Fのコンセプトは「Home Living」。小上がりやソファなど様々なコーナーからくつろげる場所を選べます。個人ロッカーはすべてこのフロアに配置。

社内コミュニケーションを促す 好きな場所を選んで働ける ABWを採用

6階建ての本社ビルは、固定席運用で部署ごとにフロアが分かれていたため、同じ建物にいても部署が異なる社員同士の交流が少なく、また徒歩5分の場所にある開発センターに所属する社員は、本社ビルの社員との接点がほとんどない状況でした。そのため、顧客からの意見を営業部門が気軽に開発部門に話せる環境ではありませんでした。また管理部門では、自社のソフトを使用して会計や給与管理などの業務を行っており、管理本部の長谷川正樹さんは「実際の使用感を開発部門に日常的に伝える機会が

あれば、よりよい商品・サービスにつなげられるのに」ともどかしく感じていました。

折しも、コロナ禍で出社が少ないためリニューアル中の座席を全員分確保しなくてよいこと、また半ば強制的とはいえ全員がテレワークを経験したことで、「自席でないとう仕事ができない」という固定観念が崩れたことがワークスタイル変革には絶好のタイミングと考えました。そこで長谷川さんと、総務部の赤沼麻美さん、潮木あき子さんは、2020年秋にオフィスのリニューアルを計画し、上申。社員同士が部門を越えて接点を持てるよう固定席からフリーアドレスへと舵を切ったのです。

赤沼さんはかねてからオフィスづくりに関心があり、リニューアルの計画がないころか

ら機会を見つけて他社を見学するなど情報収集を行っていました。その知見を生かしてメンバーや経営層と話し合い、新オフィスの方向性として、フロアごとにそれぞれコンセプトを持つABWを採用することを決定。「フロアごとに空間のバリエーションを持たせることで、特定のフロアに特定の部門が偏るのではなく、各部門の人が入り混じって、自分にとって働きやすい場所を見つけられると考えました」と赤沼さん。社員が自分の個人ロッカーのあるフロアばかり使用しないよう、あえてロッカーは1つのフロアに集中させています。

また、メンバーがこだわったのは、「若手社員の気分が上がる」ことです。「若手社員は、これから長くこのオフィスで働くことに



2Fのコンセプトは「Biophilic Cafe」で、グリーンを配した環境でランチやコーヒーブレイクができます。コロナ禍収束後はリアルイベント開催も視野に入れており、テーブルやチェアを収納してフラットなスペースとして使用することも可能です。



「Biophilic Cafe」の一部は、イベント時はステージとして、普段はプレストなどリラックスしたミーティングに活用。



ソファコーナーにはスクリーン・プロジェクタ・音響設備を備えているため、通常のソロワークやミーティングのほか、社内でのプレゼンテーションなどにも利用できます。



総務業務をワンストップで受け付ける3Fのカウンター。オフィスに届いた郵便を仕分けるためのメールコーナーや貸出モニター、備品も集約しています。



緩やかに仕切られたミーティングスペース。フロアには、社内公募で決定したP・C・Aで始まるコーナー名を表示しています。

なります。私自身は調整役に回り、彼ら彼女らが気持ちよく働けるよう意見を取りまとめていきました」と長谷川さん。

1期工事では、「部門の垣根を越えた交流」に重点を置き、カジュアルにコミュニケーションを取りながら仕事ができる場を3階と5階に構築。2期工事では、「集中してソロワークができる空間を増やしてほしい」という社員の意見を受けて、4階に広いデスクや個室、ソロワークブースを揃えた集中作業の場を整備しました。また2階にはランチやイベントなどに活用できるカフェのほか、ウェビナー開催の増加を考慮して、スタジオを設置。「2期に分けてオフィスを構築したことで、1期目は思い切ってコミュニケーションを増やす方向に振り切ることができ、2期

目はオフィスの使い勝手など、使ってみたくえでの社員の意見を反映することができました」と潮木さん。大きく変わった働き方にスムーズに馴染めるよう、それぞれのフロアの構築意図を記したオフィス運用マニュアルも整備しました。

それぞれが働きやすい場所で自ら心地よい使い方を実践

リニューアルから数ヵ月経ち、社員は自分の仕事内容や気分にあわせて場所を選んで仕事をしています。「窓際に設置したアームチェアの並べ方を自分たちで調整するなど、各自が自分なりに心地よさを探っている様子もみられ、うれしい驚きを感じます」と

潮木さん。コロナ禍が収束しても100%出社に戻すことは考えておらず、50%程度の出社を想定していますが、来なくなるオフィスになったのではないかと感じています。ただ、時間が経つにつれ、人気の高いところとそうでないところが見えてきたので、「今後は適宜手を加えて、さらに働きやすさを追求していきます」と赤沼さん。

コロナ禍の前には年3回のパーティーを実施し、今はオンライン食事会に会社が補助をするなど社内コミュニケーションの促進に努めてきました。今後は、新しく設置したカフェで社員だけでなくお客様を招いてのイベントなどを実施し、リアルなコミュニケーションを深められる日を楽しみにしています。



カフェのカウンタースペースでは、イベント実施時にはケータリングフードやアルコールを提供することも考えています。



Booth-3

Feature!

休養室を兼ねた個室をつくりスペースを有効活用!

社員が急に具合が悪くなったときのための休養室は、使用機会が少なくても労働安全衛生規則に基づく事業所衛生基準規則で設置が定められています。そこで、必要な際にはソファを設置した個室を速やかに空けて休養室とする運用にしています。入口の十字マークが目印です。



オフィスの ココが好き!

My Favorite Things

お客様とのコミュニケーションに適した場所を選んでます

営業を担当しておりお客様から電話をいただくことも多いため、少々音なら周りに気を使わず話ができる5階のロングテーブルがあるスペースを愛用しています。コロナ以降はリモート商談が増えましたが、社内にはWeb会議ブースも多いのでいつでも利用できて助かっています。

大塚慎介さん（事業本部 首都圏営業部）



秘匿性の高い情報も 個室なら安心して扱えます

給与金額などの個人情報に記載された書類を扱うときに、4階の個室が重宝しています。それ以外の業務には、いろいろなフロアを使っていますね。どのフロアもお洒落なので、「今日はどこで仕事をしようかな?」と考えるとテンションが上がります。

佐野史歩さん（管理本部 人事部）



周りを遮断できる環境で プレスリリース作成に集中

じっくり作業をしたいときに、4階窓際のソロワークブースをよく利用しています。私は広報業務も担当しており、プレスリリースなどを作成する機会もあるので、静かな環境でほどよく囲われたこのスペースだと集中力が高まるように感じますね。

五十井洋さん（事業本部 事業戦略部）



Q1 一番苦労した点はどこですか？

A リニューアル前は全員が固定席で働いていたので、完全フレッドレスに切り替えるときは懸念を訴える人もいました。そこで、不安の声が多い部門に対して個別に説明していきましました。ていねいに説明することで理解を得られたので、大切なプロセスだったと感じています。

A カフェは社内外のイベントも開催できるようにクロークやカウンターをしつらえ、設備や床の材質などにもこだわったので、コロナ禍が収束したらケータリングサービスなどを活用してイベントをしたいですね。社員の家族を招いての「ファミリーデー」などもやってみたいです。

Q2 進める上で大事にしたことは？

A 常に「働く人の気持ちを大切に」を心がけて進めました。フレッドレスの働き方に変わることに不安を持つ人もいましたが、オープンな席だけでなくソロワークがしやすい個室やWeb会議用ブースなども設置し、全社員が自分にとって心地よく仕事ができる場所を見つけられるオフィスを目指しました。

A 工事が進むにつれて、社員のテンションが上がるのを実感しました。当初はリニューアルに難色を示していた人が、新しくなったオフィスをスマートフォンで撮影して家族に送ったりする姿を見ると、「社員が家族に誇れるオフィスをつくれてよかった」とうれしくなります。

Q3 今後取り組みたいことは？

Q4 一番うれしかったことは？

社員の意見調整が本当に大変で、一時はリニューアルをやめたいと思ったほど。でも完成後はとても好評で、「がんばってよかった」と強く感じています。(赤沼麻美さん)

このリニューアルでPCAにとってプラスになることを実現できたことに達成感が持てました。(潮木あき子さん)

Project Data

事業内容：コンピュータソフトの開発および販売
 納入年月：2021年12月
 規模：600㎡(2～5F)、200名
 提供内容：インテリア設計・施工、プロジェクトマネジメント



プロジェクトメンバー(左から)
 潮木あき子さん、赤沼麻美さん、長谷川正樹さん

働く、が変わるとき。

PCA ピー・シー・エー株式会社

Company Profile

1980年8月に設立し、『PCA クラウド』や『PCA サブスク』をはじめとするサブスクリプション型基幹業務システムの開発・販売を行っています。お客さまのニーズを満たすため、システムの安定稼働、必要な機能の迅速なアップデート・機能提供だけでなく、スタッフによるサポートにも力をいれています。世の中の変化を先取りし製品・サービスに反映できるよう体制を強化していきます。



コクヨWebサイトページ「Casestudy」では様々な納入事例を掲載しています。ぜひご覧ください。
<https://www.kokuyo-furniture.co.jp/solution/casestudy/>

コクヨ 納入事例

検索



コクヨの製品やサービスの情報を「つくりてさん」にバシバシ質問しちゃうコーナーです。

フォーレ <fore>の巻



聞くひと
シリタ・イヨ
Iyo Shirita

オフィスツールや働き方に興味シンシンな総務部の新人女子。日々のストレス発散は、海外在住の友達との「オンライン飲み」で!

吸音性能を備える パネルブースシステム <fore>を 開発した4人に聞きました!

- 横 シリタさん遅いね。迷ってるのかな?
- シ (<fore> ブースの外を通りかかって驚き) すみません! 違うブースで待機してました。話し声がしなかったので、みなさんまだなのかなと思っていて…。
- 千 普通の声でしゃべっていたんですけど、<fore>は吸音・遮音効果が高いから外に話し声もれにくいんです。
- シ 天井が開いているから音もれそうなのがしますが…。
- 山 ですよね! でも、コロナ禍だったこともあり、閉塞感のないブースをつくりたかったんです。どうすれば天井がなくても音もれをなくす効果を高められるか考えて、ブース

の壁面をいろいろな素材で試作しては実験しました。ちなみにネーミングの<fore>はフランス語の「forêt」(森)という単語に由来しており、「森のような静けさ」をイメージして名付けました。

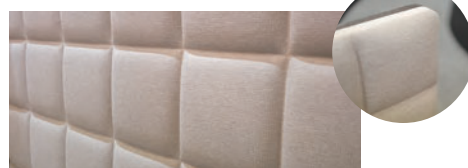
岩 最終的には、壁面は吸音材と遮音材を組み合わせることにより、効果とデザインのバランスがよい仕様になりました。

シ へ〜、薄いパネルに見えるのに、技術が結集されているんですね。でも、全体的に見た目がソフトで、角も丸みがあるし、ブースの中に入るとなんとなく和みます。

横 うれしいです。「吸音・遮音機能がスゴイ」というだけでなく、インテリアとしてオフィスにしっかりなじむことを目指したので。特にこだわったのは、パネル内側のモコモコした凹凸です。



【fore <フォーレ>】
PFR-BSD1313M-M6T11 +
NFR-L1306C-6AM1M1 ¥1,090,600- (税別)



シ ふんわりと厚みがあって、なんだかワッフルみたいですわね。

千 シリタさん、鋭い! この凹凸は、表面の材料に熱をかけて1枚ずつ型押し成形しています。

まさにワッフルを作るような製法で仕上げているんです。見た目でも吸音・遮音性能を表現する意味でも、凹凸をつけることは重要でした。

岩 そこからも大変で…。「パネルがあると音の拡がり方がどう変わるか」「オプションの屋根があるとどうか」などをシミュレーションソフトで見える化して、検証を繰り返しました。実際にショールームに設置してみて、期待通りの反応が得られたときはうれしかったです。

シ 高さも3タイプあるし、パネルを自由に組み合わせてレイアウトすればいろんなタイプのブースをつくれますね。うちの会社、みんながWeb会議に会議室を使いたがるので「増設しなきゃダメかな?」と思っていたんです。でも、これだけ音を吸収するなら、<fore>のパネルブースシステムで十分ですね。部内で提案してみます!

山 東京と大阪のショールームに置いてあるので、吸音・遮音効果をぜひ体感していただきたいです!

まるで森の中にいるみたい!
Web会議やミーティングの声を
ワザありパネルが吸収します。



ファニチャー事業本部 ものづくり本部

開発 (製品設計)	デザイナー	商品企画	開発 (音響)
千田 啓資 Keisuke Senda	横田 早紀 Saki Yokota	山本 容子 Yoko Yamamoto	岩切 幸伸 Yosinobu Iwakiri
ワッフルを食べるたびに<fore>が頭に浮かびます…。	好みの観葉植物で自宅に“森”の雰囲気を実現。	耳がよすぎてWEB会議でイヤホンしません!	今、一番耳に入ってくる音は子どもの夜泣き。



<fore>のブース内には、タブレットスタンドや卓上照明、ホワイトボード、荷物やコートを掛けるハンガーなども取り付けられるから、出社したらそのままブースに直行して仕事ができそう。在宅勤務が多い人も、オフィスに立ち寄ったときはギュッと凝縮した時間を過ごせるとありがたいですよ。ソロワークからミーティング、プレストまで、パネルの組み合わせ方次第でブースの大きさを変えられる便利さも見逃せません!

1 働き方コンサルタントの視点！

テレワークが当たり前になると、ワーケーションがラクにできるのか？

コロナ禍でのテレワークが続く中、「ワーケーション」という言葉を耳にする機会が増えてきたのではないのでしょうか？今回は「ワーケーション」体験記をご紹介します。先般私は、社内の仲間4名と2週間、東京から新幹線で1.5h程度の距離にある長野市で働くというトライアルに参加しました。市内の居住地から少し離れた場所にオフィスがあり、そこに出勤して働くスタイルです。「ワーケーションいいね！」という意見と共に、「今まで通り仕事できるの？」という意見も一定数あると思います。そこで、私がどのように働いていたかを一部ご紹介します。ひとつは業務遂行。コロナ禍でもお

客様先に伺ってプレストなどをする機会が多い私の場合、普段から2名体制で案件に取り組むようにしています。そうすることで、私が遠隔参加でも、お客様先に1名が行くことで、遠隔でのコミュニケーションロスを解消できます。これはワーケーションに限らず、感染リスクを考えたときにも有効な業務推進だと、チームメンバー全員で取り組んでいます。次にチーム内コミュニケーションです。これもココヨでは、離れていてもWeb会議システムやチャット等ですぐにつながる環境を普段から活用しています。適度にオンラインコミュニケーションをとることで、疎外感などなく過ごすこと



成田 麻里子
Mariko Narita

新卒でココヨに入社し、オフィス設計/新規事業開発を経て、現在は人材育成や働き方のコンサルタントとして、日々お客様の課題に向き合っています。

ができました。また業務外では自然豊かな環境で、仕事での集中/プライベートでのリラックスとメリハリある生活ができました。皆さんもテレワークが当たり前になった今、次にどんな働き方ができるか一緒に考えていきませんか？



5名で使わせていただいた長野のオフィスは、窓の外は雪ですが、植栽も豊かで温かみのある環境でした。

2 働き方用語辞典

「リスキリング」 仕事に必要なスキルの 大幅な変化に適応するための学び

みなさんの企業でDXという何を思い浮かべますか？ 大切だとは思いますが、日々新しい単語を目にして何だか気後れしてしまうという方もいるかもしれません。ココヨの調査^(※1)では、DXが推進されることによる変化で不安に思うこととして、「ITスキルに対する学びが常に必要になる」という回答が一定数ありました。また、DXへの関心度合いは「興味はないが、会社でセッティングしてもらえたら学びたい」というワーカーが一番多く、積極的ではないものの、必要性は理解している様子が見えます。今回取り上げた「リスキリング」は、経済産業省^(※2)によると「新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされる

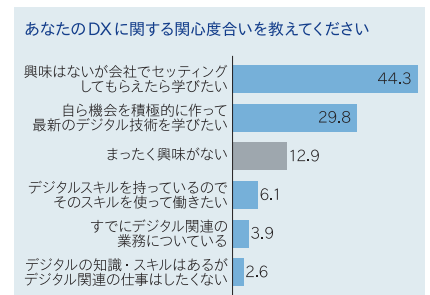
スキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する/させること」と定義されており、企業主体で行うワーカーの能力再開発を指します。昨今、DX戦略を進める中で急務のデジタル人材育成の文脈で注目されています。前述の調査でワーカーも課題を感じているように、現在DX関連の業務に携わっているか否かに関わらず、企業の競争力を維持向上させるためには全てのワーカーの学びが必要である、というのが共通の認識ではないでしょうか。一方、いざリスキリングを進めると、社内でも非定型のスキルをどう展開するのかという壁にぶつかりがちです。おすすめは、先進的な企業がリスキリングを社会課題と



三村和香
Waka Mimura

ココヨ入社以来、製品の販促企画や展示会イベントの企画・運営を担当。最近では、自社ホームページ上のコンテンツ拡充と、運用の仕組み作りに関与中。

とらえ、社外に開放している自社の研修コンテンツや、デジタルインフラの主要サプライヤーが提供する製品活用の教材です。まずはこれらを活用して、リスキリングを始めるのはいかがでしょうか。



※1 ココヨ Small Survey「オフィスの変化」2021年5月実施 n=309
※2 経済産業省 デジタル時代の人材政策に関する検討会

テレワークやってみて、 オフィスに期待することって？



約7割の人が

「さまざまな部署の人とコミュニケーションをとれること」 を期待している

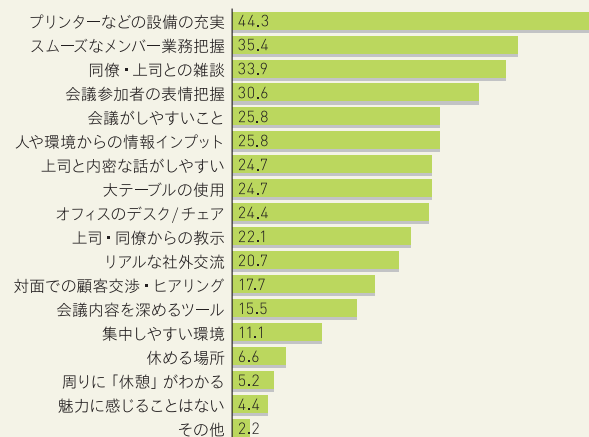
新型コロナウイルスの流行により、急速に定着したテレワーク。それにより通勤負担の軽減や可処分時間の増大など、ワーカーにとって大きなメリットも感じられました。一方で、オフィスでは当たり前だったことができなくなったのも事実です。

テレワーク実施中のワーカーに対する調査によると、オフィスで行われていることで魅力的なことは「プリンターなどの設備の充実」「スムーズなメンバー業務把握」といった業務上のことが上位2位に挙がっています。また、「同僚・上司との雑談」「会議参加者の表情把握」「人や環境からの情報インプット」「内密な話がしやすい」といったことが上位に挙げたのは、テレワーク中のコミュニケーションのメインは、Web会議やチャットやメールで、そういったツールでは業務外の会話がしづらかったり、またパソコン画面上では表情がつかみにくいといった不満があるからではないでしょうか。

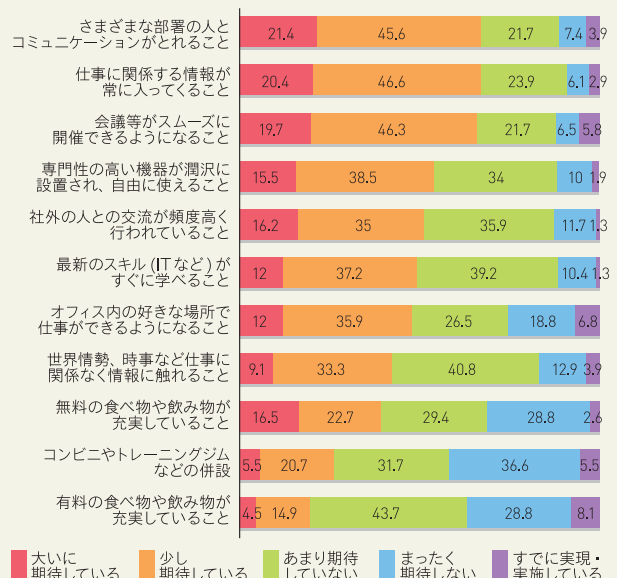
では新型コロナウイルス収束後、オフィスに期待することはどんなことでしょうか。「さまざまな部署の人とコミュニケーションがとれること」(67.0%)「仕事に関する情報が常に入ってくること」(67.0%)が一番多く挙げられました。これは、テレワーク下での情報インプットでは、自分が積極的に行動することが必須であることから不足を感じ、自分が捉えきれない情報や想定外のニュースなどを入手したい、という気持ちの表れではないかと考えられます。

また、恒常的に会議室が不足している企業が多いといわれていますが、Web会議では会議室の確保が不要なため、会議日程の調整の負荷が軽減していました。オフィスでリアルな会議を実施する際にもスムーズに開催できるようになることを期待している方も多くいる(66.0%)ようです。

■魅力を感じるオフィスで行われていること (複数選択可・n=309)



■オフィスに期待すること (複数選択可・n=309)





2018年3月に赤坂インターシティ AIRにオフィス移転をされた日鉄興和不動産株式会社様は第31回日経ニューオフィス賞 ニューオフィス推進賞を受賞。いち早くABWの働き方を導入されました。移転後、およびコロナ禍という大きな変化を通して実施された、働きやすさに向けた工夫をお聞きました。



日鉄興和不動産株式会社の巻

オフィスづくりからの流れを止めない

オフィス構築時には各事業部門のマネジメントで構成する「本社移転委員会」を週1回開催し、意見の集約や相談、決定事項の周知を行って来ました。移転後も同じメンバーで「本社運営委員会」として、隔週1回程度の活動を継続しています。

目指す働き方に向けて常にアップデート

移転1年度にはICTインフラを全面更新し、オンラインでの働きやすさも向上。フリーアドレス時の所在がわかるシステムの導入や、1on1ミーティングの採用など、目指す働き方に向けてアップデートを行っています。また、移転時は約70%の部門がフリーアドレスを採用していましたが、現在では100%となっています。

コロナ禍での働きやすさ

コロナ禍となる前からABWを採用し、紙資料を削減するなどを行っていたため、緊急事態宣言下でのほぼ100%の在宅勤務もスムーズに実施することができました。コロナ禍では、ハイブリッドワークがよりスムーズに行えるようなサービスの導入や、在宅勤務環境の整備のための手当支給などの支援を行っています。

※オフィスのチカラ vol.14号では移転時のオフィスをご紹介しますのであわせてご覧ください。



日鉄興和不動産株式会社
総務部 長谷川 真さん、坂口真衣さん



続けるコツ



資料の印刷、郵便物の仕分けなどの付帯業務はオフィスサービスセンターに集約し、アウトソーシングを行っています。オフィス環境維持も担っており、日々のカイゼンやサポートは専任のスタッフが実行することで、総務メンバーは新しい企画に集中することができます。



はたらきやすく



オフィスラウンジと執務エリアは、お互いの気配が感じられるようガラスの壁で仕切っています。しかし、ラウンジでイベント実施の際には執務中の方がイベントの様子が気になるため、ロールスクリーンで必要に応じて視線をコントロールできるようにしました。



おもてなし



オフィスビルの中にはコンビニエンスストアもあるのですが、ちょっと小腹が空いたときにわざわざ出向くのは面倒でした。そこで、コミュニケーションスペースにスマホ決済の物販スペースを設置。インテリアにもマッチした什器でつろぎの時間を豊かにしています。



はたらきやすく



コロナ禍後に、「郵便物のチェックのためだけの出勤」をなくすため、郵便物スキャンサービスを開始しました。届いた郵便物をスキャンし、データベースに登録。利用者はオンラインで確認、必要な物だけ内容物のスキャンを依頼し、取り寄せすることができます。



はたらきやすく



24時間問い合わせができる人事・総務サービスを開設し、自宅からでも気軽に質問できるようにしました。また、在宅勤務では運動不足になりがちのため、ウォーキング記録やエクササイズ動画、AI栄養計算など健康をサポートするアプリを導入しています。



はたらきやすく



BCPの観点から社員全員の自宅に蓄電池を配布。勤務時間を考えるとオフィスよりも自宅で震災にあう確率の方が高いということから導入されましたが、特にコロナ以降、その比率は高まっています。万が一の停電でも、ノートPCと携帯電話が1週間使用可能です。

Webサイト「オフィスカイゼン委員会」では様々なオフィスカイゼンのアイデアを掲載しています。ぜひご覧ください。 <https://www.kokuyo-furniture.co.jp/kaizen/index.html>

オフィスカイゼン委員会 検索

